

満開の桜の森の下をゆく



桜の散花ほど時の流れを感じさせるものはありません。  
車窓から見上げる桜は、ただただひっそりと、そして、ひらひらと散り続けるばかりでした。  
桜って、美しいというより、ちょっと美しすぎる…、そして、その時に終わる…。  
そんな「名前を付けて保存」する桜の季節を待っています。  
わたらせ溪谷鐵道 中野駅

会員 五反 章裕 (63期)